

令和4年3月18日

## 文化審議会の答申（登録有形文化財（建造物）の登録）について

文化審議会（会長 佐藤 信）は、令和4年3月18日（金）に開催された同審議会文化財分科会の審議・議決を経て、新たに90件の建造物を登録するよう文部科学大臣に答申しました。

この結果、官報告示を経て、登録有形文化財（建造物）は13,422件となる予定です。

### 1. 今回答申された登録有形文化財（建造物）の概要

	新規登録	累計
登録件数	90	13,422
関係都道府県数	21	47
関係市町村(区)数	32	999

### ○時代別 (件)

	江戸以前	明治	大正	昭和	計
新規登録	10	19	17	44	90
累計	2,387	4,235	2,726	4,074	13,422

### ○種別 (件)

	産業			交通	官公庁舎	学校	生活関連	文化福祉	住宅	宗教	治山治水	他	計
	1次	2次	3次										
新規	1	4	5	4	2	4	0	16	36	18	0	0	90
累計	119	1,413	1,681	513	237	417	337	460	6,009	1,928	223	85	13,422

### (件)

	建築物	土木構造物	その他の工作物	計
新規登録	72	0	18	90
累計	10,643	663	2,116	13,422

今回の答申における主なもの

① <sup>そらぬま</sup> スイス人建築家が設計した空沼岳のヒュッテ

001 <sup>そらぬま こや</sup> 北海道大学空沼小屋 北海道札幌市 昭和3年

札幌南郊、空沼岳<sup>ばんけいぬまほとり</sup>の万計沼畔<sup>ちちぶのみや</sup>に所在する北海道大学の山小屋。建設の発意に秩父宮<sup>やすひと</sup>雍仁親王が関わり、基本設計はスイス人建築家<sup>マックス</sup>の M・ヒンデル。丸太組構法で、登山者が集えるストーブ周りの吹抜や、30人を収容可能な二階の寝所など、機能的で良質なスイス風のヒュッテ（山小屋）。



② <sup>みずさわ</sup> 水沢城下武家住宅の系譜を引く数寄屋風邸宅

002 <sup>あべ</sup> 旧安倍家住宅主屋 岩手県奥州市 明治前期

水沢城下の中心部に位置する近代和風住宅。技巧を凝らした二階座敷など数寄屋風の意匠を施し、見所が多い。屋敷は表門を通りに面して構え、北国特有の板蔵<sup>いたぐら</sup>や土蔵を配するなど、建物と相まって近世武家住宅の系譜を見て取れる。



提供：奥州市教育委員会

③ <sup>ぶんじんぼっかく</sup> 文人墨客が集った和紙産地のランドマーク

013 <sup>おかやま</sup> 旧岡山酒造養浩園喜雨亭 茨城県常陸大宮市 明治中期

和紙<sup>こうぞ</sup>や楮<sup>いち</sup>の市が開かれた高部<sup>たかぶ</sup>地区中心部に位置する造り酒屋の座敷棟。一階は茶室、二階は床構え付きの座敷からなり、障壁<sup>しょうへき</sup>面に書画<sup>しよが</sup>を飾り、広大な庭園である養浩園を見下ろす。三階部分には酒の看板を掲げて広告塔の役目も果たし、特徴ある町並みを形成する。



④ 戦災と台風被害から復興した古代寺院伽藍<sup>がらん</sup>  
037 四天王寺五重塔<sup>してんのうじ</sup> 大阪府大阪市 昭和34年

戦災やジェーン台風で失われた四天王寺伽藍の、鉄骨鉄筋コンクリート造による再建造物群。五重塔は心柱を立てずに昇降に供する二重螺旋階段<sup>らせん</sup>を設けるなど近代的な側面を備えつつ、中国の古代壁画や発掘調査成果を取り入れながら、伽藍全体に飛鳥様式<sup>あすか</sup>を基調とした復古建築。建築史家藤島玄治郎<sup>ふじしまがいじろう</sup>の設計で、施工は大林組。



提供：宗教法人四天王寺

⑤ 女子大前のまちかどの小さな洋風交番<sup>なべや</sup>  
066 旧奈良警察署鍋屋<sup>なべや</sup>巡查派出所 奈良県奈良市 昭和前期

奈良女子大学向かいの市街地の一角に位置する洋風の派出所。当初はスレート葺きで、隅切り部に切妻破風<sup>すみき きりつまはふ</sup>とフィニアルを載せる。外壁はモルタル塗りで柱や梁を表現し、柱間をドイツ壁仕上げとする。住民と大学と奈良市が協働<sup>はしらま</sup>して、地域の拠点施設及び観光案内所として活用している。



提供：奈良市教育委員会

⑥ 大社造<sup>たいしゃづくり</sup>に相応しい建築史家監修による大型拝殿  
075 美保神社拝殿<sup>みほ</sup> 島根県松江市 大正13年

桁行16メートル、梁間12メートルを超える切妻造り柿葺きの建物で、下屋中央に切妻破風を付して正面性を高める。内部は石敷きで円柱を並べ<sup>おごそ</sup> 厳かな空間を形づくり、大社造の重要文化財美保神社本殿に相応しい壮大な拝殿。建築史家伊東忠太<sup>いとうちゆうた</sup>と明治神宮造営局木村米次郎<sup>きむらよねじろう</sup>の設計。



<担当> 文化庁文化財第二課電話：03-5253-4111（代表）  
課長 山下 信一郎  
課長補佐 山村 満理子  
登録部門 黒坂 貴裕、清永 洋平（内線 2797）  
審議会係 川口 雅之、福島 絵里奈（内線 3160）